

2年人文社会科学科「高志の国文学館訪問研修」実施

令和5年7月19日(水)、2年人文社会科学科22名が高志の国文学館を訪問し、常設展・企画展の観覧及びワークショップを行いました。

開講式の後、職員の方から「ふるさと文学の発信について」と題して、文学館の情報発信の工夫を説明していただきました。純文学の作品だけではなく絵本やアニメ等のサブカルチャーも扱っていることや、現企画展ではVRを導入し360°映像で楽しめることなどを紹介していただきました。

次に、企画展「降矢なな原画展」についての解説を聴きました。降矢ななさんの作品に込める思いや作品の特徴、各展示室の展示内容など、実際に鑑賞する際のポイントを丁寧に教えていただきました。

その後、常設展と企画展を観覧しました。



(上) 常設展観覧の様子
(下) 企画展観覧の様子



(上) 班で絵を読み解く様子
(下) 発表の様子

午後のワークショップでは、「絵本の絵を読み解く」活動を行いました。3冊の絵本を5グループで分担し、絵本の中のことば（テキスト）や絵（イラスト）の工夫を探したうえで、その絵本の主題を考えました。

それらをポスターにまとめ、最後に、グループ毎に発表しました。絵本の該当箇所を指し示したり、ポスターを効果的に使ったりして工夫をこらし、説得力のある発表を心がけました。

普段意識していなかった「とやま」の文学や、小さな子どものものだと思っていた絵本が多く創意工夫の上に創作されていることを知るとともに、読む楽しさや奥深さを感じることで、貴重な機会となりました。

<生徒の感想>

・富山県にはあまり文学者がいないと思っていたが、芥川賞作家や世界的に有名な作家に影響を与えた作品もあることがわかった。

・解説を聴きながら展示をみることで、「+α」の知識を得ることができ、作品をより深く理解することができた。

・降矢さんの絵本は、見開きで描かれていたり、1.5倍の紙に大胆に書かれたものを縮小したりして迫力が出るように創られていることを聞き、自分が幼い頃に読んだ絵本の記憶が今も鮮明に残っていることに納得がいった。

・普段、ある作品を読んでも、なぜその作品が魅力的なのかを追究せず放置することが多いが、今回のワークショップでは、一つの作品を複数人で鑑賞し、それぞれの考えを共有し合い、様々な視点を得ることができた。